

森元首相

内閣改造
首相は踏み切る

7月後半からお盆前に

自民党の森喜朗元首相は四日午後、都内で講演し、内閣改造について「北海道洞爺湖サミットが終わって、七月後半から八月のお盆のちよっと前を考へなければいけない。そういうところで(福田康夫首相は)踏み切るのではないか。やるとすれ

ばそういう時期しかない」と述べ、八月前半までに首相が改造に踏み切る可能性が高いとの認識を示した。森氏はこれまで、内閣改造について「今そんなことをやる状況ではない」と早期改造に否定的な見方を示してきた。し

かし、同日の講演では一月にタイミンクがあったが逃した」と指摘した上で、「福田首相はこころで耐え難きを耐え、忍んでこられた。それなら自分で理想的な閣僚を選ぶ方がいいなと思う」と語った。一方、森氏は衆院解散

に關し、来年度予算案や関連法案の成立が重要とし、「これらを片付けておかないと選挙をしても決して自民党にプラスにならない。(来年の)六月なのか、七月なのか、どだいたいなる」と述べ、六月解散の可能性に言及した。

次期臨時国会の召集時期については「八月二十日から二十五日ごろ」との見通しを示した。

【7/5 赤旗】

お盆前までに
内閣改造も

自民・森氏

自民党の森喜朗元首相は四日、都内で講演し、福田康夫首相の政権運営に關し「一月に(内閣改造の)タイミンクがあったが逃した。そうであれば、北海道洞爺湖サミットが終わって七月後半から八月のお盆のちよっと前を考へなければいけない。そういうところで踏み切られるのではないかな。やるとすればそういう時期しかない」と述べ、首相は八月上旬までに改造に踏み切る可能性が高いとの認識を示しました。

今月末の内閣改造浮上

首相、サミット後に決断

福田康夫首相は、7日に閉幕する主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）の終了後、内閣改造についてのは非を決める方針を固めた。実施すれば首相にとって初の本格的な組閣になり、早ければ今月28日にも実施する。ただ、改造が必ずしも政権の求心力向上につながらない場合もあり、8月下旬召集予定の臨時国会が閉幕するまで封印することも検討するとみられる。

首相は4日午後、改造の可能性について「白紙は白紙だ」などと語った。首相官邸で記者団の質問に答えた。

首相は現在、「北海道洞爺湖サミット」の議長国として

課題はなくなる。

週末の12日から数日間首相公邸にもいるなどして、できるだけ外部との接触を断ち、6月23日の記者会見でも述べた「政策の総合評価」に充てる方針。また同日の記者会見で表明した厚生労働に関する「5つの安心プラン」が7月下旬にまとまる予定で、改造を決定した場合はプランの完成を待って行いたい考えだ。

改造をめぐるのは、自民党の森喜朗元首相も4日、東京都立川市で講演し、

「福田首相はこれまで耐え難きを耐え忍んできたのだから理想的な閣僚を選ぶ方がいい。7月後半から8月のお盆前に踏み切るのではないか」との見通しを示した。

また、「首相はまさに明鏡止水、静かな気持ちで洞爺湖の湖面を見て、次の政治アクションを取るのではないか。改造をすれば総選

挙を行うと受け取られるかもしれないが、何もやらな」と（首相は）辞めるつもりなのか」と思われかねない」とも述べた。

一方、衆院解散について「原油高や食料品への価格転嫁で国民の不満が出てくるため、一番やりにくい選挙になる。平成21年度予算や関連法案を片付けておかないと自民党にプラスにならない。来年6月か7月ということになる」との考えを示した。

【7/5 毎日】

内閣改造

「7月後半から8月に」

森元首相初の具体的言及

自民党の森喜朗元首相は4日、東京都立川市で講演し、福田康夫首相が内閣改造を行うかどうかについて「自分で理想的な閣僚を選

ぶ方がいい。7月後半から8月のお盆より前には踏み切るのかなと思ふ」と語り、首相に改造を強く促すとともに今夏に改造の可能性が

あるとの見方を示した。改造の可能性を森氏が時期を含めて具体的に言及するのは初めて。小泉純一郎元首相は3日の講演で「私が想像するに内閣改造は難しい」と述べていた。衆院解散・総選挙の時期に関して森氏は「来年度の歳入法案を片つけないと、選挙しても自民党のプラスにならない。そう考えると来年6月か7月かということになる」とも指摘した。【近藤大介】

【7/5 東京】

「衆院解散は

来年4、6月」

森元首相

自民党の森喜朗元首相は4日、東京都立川市で講演し、衆院解散について「(二〇〇九年度)予算案を(国会で)通し、予算関連法案も片付けないといけない。そう考えると、大体、来年の六月なのか、四月なのかということになる」との見通しを示した。

内閣改造については「やるとすれば、七月後半から八月のお盆より前の間しかないだろう」と述べた。

内閣改造「お盆前に」

森氏が見通し「解散は来夏」

森元首相は4日、東京都内で講演し、内閣改造の時期は「7月後半から8月のお盆前」と述べ、8月上旬までに福田首相が改造するとの見通しを示した。福田政権発足からまもなく1年になるため、自民党内では改造を求める声が強く、早期改造を促す環境整備を図ったようだ。

首相は白紙強調

森氏は講演で「自分で理想的な閣僚をお選びになる方がいい」と改造の必要性を強調。時期については「1月にタイミングがあったが逃した。7月後半から8月のお盆前に考えなければならぬ。首相とは話していないが、やるとするとそういう時期しかない」と語った。

自民党幹部は3日、8月下旬に臨時国会を召集する方針を踏まえて「改造をやるならば、国会召集の前に2週間ないと難しい」と述べ、8月上旬の改造の可能性に言及。自民党の加藤紘一元幹事長は4日、TBSの番組収録で「福田首相は政策の理念や政治哲学をはっきり出していない。内閣改造でしっかりやるべきだ」と述べ、福田色を打ち出すため早期改造を求めた。

しかし首相は4日夜、記者団から改造の意思を問われて「白紙」との回答。首相は先月23日の記者会見で「一番重

視しているのは政策の実行・実施だ。その政策がどういう状況にあるか、いずれ総合評価しなければいけない」と説明。7月中には高齢者政策や医療などについて「五つの安心プラン」をまとめ、09年度予算の概算要求基準づくりも優先する考えを示している。

首相が態度を明確にしないため、与党内では「内閣改造は難しい。今の閣僚、よくやっている」（小泉元首相）と慎重論も広がっている。こうした中で、森氏が改造を実施できる時期を絞り込んだことで、首相が7月末から8月初旬の間に改造に踏み切る余地が残されたと言える。別の自民党幹部はこの日の森氏の発言について「その範囲しかない」と同調している。

また、森氏は講演で、衆院解散について「年内は無理してやることはない。歳入法案もじっくり片つけておかないと、選挙しても自民党にプラスにならない。そう考えると

（来年）6月なのか、7月なのかとだいたいなる」との見通しを示した。理由は「（任期満了の）9月になったら、追われた（追い込まれた）選挙になる」と説明した。しかし、来年7月までには東京都議選が行われることから、与党内には「都議選の後の方がいい」（古賀誠選挙対策委員長）と、任期満了近くの解散を望む声が強まっている。

■7～8月の主な政治日程

〈7月〉

- 6日 日米首脳会談
- 7日 北海道洞爺湖サミット（～9日）
- 下旬 「五つの安心プラン」取りまとめ
- 月末？ 09年度予算の概算要求基準閣議決定

〈8月〉

- 6日 広島原爆死没者慰霊式・平和祈念式
- 8日 北京五輪開会式
- 9日 長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典
- 15日 全国戦没者追悼式
- 下旬 臨時国会召集